新教出版社 出版通信

2024年 5月

〒162-0814 東京都新宿区新小川町 9-1　Tel: 03-3260-6148　Fax: 03-3260-6198
ホームページ：https://www.shinkyo-pb.com/

クィア神学入門

その複数の声を聴く

クリス・グリノフ 著／薄井良子 訳

◆四六判・290頁・定価2970円

5月25日発売

キリスト教は「クィア」をどう理解しようとしているのか

レズビアン、ゲイ、バイセクシュアル、トランスジェンダー等々、ジェンダーやセクシュアリティの点で非規範的であることを意味する「クィア」。キリスト教会の圧倒的大勢は、従来それらを悪とみなして断罪するか、治療すべき病として異常視するかのいずれかだった。だが今や、教会と神学の中から別の、多様な声が聞こえるようになってきた。本書は、クィアとキリスト教に関する基本的な概念を平易に解説すると同時に、これら複数の神学的な冒険の歴史と最前線の議論を紹介する。キリスト教は「クィア」をどう理解しようとしているのか。多くの人の疑問に答え、新たな理解と更なる学びへと促す画期的入門書。

【既刊書より】

ラディカル・ラブ　クィア神学入門

パトリック・チェン／工藤万里江訳

◆四六判・定価2530円

伝統的な三位一体論を大胆に組み替えて、性的少数者の視点から企てられた神学。神の本質を、あらゆる境界線を消してしまうほど過激な愛に見出し、福音を「クィア」なものとして鮮明に打ち出す。

クィア神学の挑戦　クィア、フェミニズム、キリスト教

工藤万里江著

◆A5判・定価4730円

大きな影響力を持つ三人の女性神学者の思想を精査し、フェミニズム（神学）とクィア（神学）に共通する課題と断絶との双方を明らかにする。クィア神学の多様な内実、その問題と可能性を展望する。

奴隷より身を起こして

ブッカー・T・ワシントン自伝

ブッカー・T・ワシントン 著／佐柳文男・佐柳光代 訳／大森一輝 解説

◆四六判・270頁・定価2860円

刊行が4月17日に遅れましたので再掲載します。

100年前、彼は差別と貧困をどう乗り越えようとしたのか

20世紀初頭のアメリカ合衆国で最も著名な黒人だったワシントンの自伝。奴隷として生まれた少年が志を立て、苦学力行の末に成功し、白人上流層からも賞賛され受け入れられていく過程を、生き生きと語る。黒人「保守派」の元祖と目される人物の自画像を通じて、読者は、差別に対する闘争と迎合の微妙な狭間を考えさせられるだろう。本書は1919年（大正8年）の佐々木秀一による抄訳以来いくどか翻訳されてきたが、久しく入手困難な状況にあった。このたび清新な訳文と共に、大森一輝氏（北海学園大学）によるワシントンの評価・受容をめぐる充実した解説を付す。

【既刊書より】

汝の敵を愛せよ　M・L・キング／蓮見博昭訳　◆四六判・定価1870円

私には夢がある　M・L・キング講演・説教集　梶原 寿監訳　◆四六判・定価2640円

アーバンソウルズ　黒人青年、宗教、ヒップホップ・カルチャー　オサジェフォ・ウフル・セイクウ著／山下壮起訳　◆B6変・定価2640円

５～６月以降の出版予定から

滝沢克己協会編
滝沢克己の現在
没後40年記念論集

没後40年を記念し、15名の論者が滝沢思想のアクチュアリティを論じる。寄稿者＝佐藤誠、金珍熙、石井砂母亜、鈴木一典、水田信、牧村元太郎、寺園喜基、スザンネ・ヘネッケ、鈴木啓順、芝田豊彦、黒田昭信、前田保、白井雅人、堀内隆治、丹波博紀。

四六判・予価3900円

ミロスラフ・ヴォルフ著／彦田理矢子訳
排斥と抱擁
アイデンティティ・他者性・和解についての神学的探求

異質な者を憎悪し、殺し、排斥しようとする者を、私はどのようにして愛し、抱擁することが可能なのか。暴力が猛威を振るう世界の中で和解の道はあるのか。凄惨な内戦を経験したクロアチア出身の著者は、この問題を探求した本書（1996年）を、自らの知的葛藤の記録であると同時に霊的旅路の記録とも呼ぶ。『クリスチャニティトゥデイ』誌が「20世紀で最も影響力のある100冊」に選んだ書の待望の邦訳。

A5判・予価7700円

マシュー・ホケノス著／穐田信子 訳
マルティン・ニーメラー
ヒトラーに逆らった牧師［仮題］

アメリカ人教会史家が冷静な筆致で著した最新の評伝。第一次大戦ではUボートの艦長として戦い、牧師に転身した後もなおナショナリストで、当初はナチに共鳴したが、やがて批判に転じ、戦時下は強制収容所に囚われ、戦後はエキュメニカルな場で活躍した激動の生涯。

四六判・予価3500円

● ３月のオンデマンド復刊と雑誌

新規オンデマンド化！

イエスとその目撃者たち
目撃者証言としての福音書

リチャード・ボウカム著／浅野淳博訳

福音書はどこまで史的に信頼できるのか？　目撃者の信頼性を、古典から現代の記憶理論まで駆使して吟味し、様式史・編集史批判がはらむ方法論的な問題性を剔抉。「目撃者証言」というジャンルから福音書を読むと見えてくるものを鮮やかに示す。ヘンゲルも絶賛した力作であり、興味尽きない福音書解釈を提示した大著。

◆A5判・定価9999円

福音と世界
4月号　復活と世界――復活の社会化、共同化

◆定価660円

寄稿者：金井美彦、浅野淳博、島しづ子、森本典子、佐原光児、榎本空／川口葉子、河島幸夫、大嶋果織／**連載**　今高義也、後藤里菜、飯田華子、長尾優、C・J・サンダース&A・ヤーバー、山﨑ランサム和彦、勝村弘也

新教出版社から

販売部から

カルヴァン新約聖書註解Ⅷ『コリント前書』に第一コリント15・3―5に関する註解が記されています。「すなわち、キリストは、わたしたちの呪いを御自身の上に引き受けとられ、わたしたちのために、そのあがないとなられたのである。いったい、キリストの死は、わたしたちの罪をぬぐい去るための犠牲以外の何ものであろうか。キリストの死こそ、わたしたちを神と和解させるための、なだめの受苦にほかならないのではないか」（345頁）。そこから聖書が教える救いの原則を見出すことができると思います。(1)信仰の対象は神、(2)救いのベースはキリストの十字架、(3)救いの方法は神の恵みと神への信仰、(4)ナザレのイエスが旧約聖書に預言されたメシアだと信じること。私はクリスチャンになって今年4月で21年目を迎えました。日々の生活を歩む中で、自分の信仰が的外れでないかどうか不安になることは多々あります。その時、キリストに結ばれて神に対して生きていること、もはや罪に定められることがないことを信じ続けたいです。キリストによって示された神の愛は永遠不滅です。今年も主イエス・キリストを復活させられた父である神、慰めを豊かにくださる神が褒め称えられますように。（坂谷内）

編集部から

本は高いのか安いのか。紀伊国屋書店の藤則幸男社長はある講演で、2022年の新刊既刊含めた書籍の平均単価は1256円で、5年間で9％弱上昇したのに対し、ドイツでは2462円で、同時期に30％上昇したことを紹介し、「日本の書籍価格はもっと上げてよいのでは？」と問題提起しました。これは利幅の薄い書店の実感に基づく悲鳴に近い発言だと思います。他方、今年度で閉店を決断した北海道キリスト教書店の亀岡徹社長は、キリスト教書は「もっと簡素な装幀で、もっと安価であってほしい」と訴えています。これまた書籍に十分支出できない、とりわけ地方教会の実情を知悉した痛切な言葉だと思いました。しかし私の考えを言えば、本は高くありません。たとえばこの号で紹介したボウカムの『イエスとその目撃者たち』のオンデマンド版は9999円です。これは1万円で買えるよう、制作会社の推奨価格より抑えた値段ですが、それでも確かに高い。しかし著者の数十年に及ぶ研究、それを上質な日本語に移した訳者の労苦、そして編集者の苦心が詰まっていることを思えば、むしろ涙が出るほど安いと思います。ディズニーランドに1日いるだけで1万円などすぐ飛んでいくのですよ。（小林）

福音と世界

2024年 5

A5判・80頁・定価660円・送料70円
年間予約購読料（送料共）8760円

特集：バルメン宣言90年

バルメン宣言 ――翻訳＝平林孝裕
現代を問うバルメン宣言 ――寺園喜基
バルメン宣言を貫くもの ――その成立過程を振り返って ――平林孝裕
今日的危急に対する信仰告白「バルメン」 ――教会が教会であるために ――岡田 仁
「声明」、「宣言」、「信仰告白」――「声」をあげるという委託と責任に応える教会 ――小海 基
バルメン宣言が教えていること ――秋永好晴
神を畏れる――バルメン宣言と現代ドイツの教会をめぐる考察 ――吉田 新

日本基督教団と北森神学 3 ……川口葉子
【書評】山口里子『マルコ福音書をジックリと読む』 ……高橋哲哉

【新連載】
◆証言としての旧約聖書 1 ……田島 卓

【好評連載】
◆神と「女性的なもの」を辿って 12 …後藤里菜
◆私は告白する、私の神を 14 ……長尾 優
◆教会におけるマイクロアグレッション 25 サンダース、ヤーバー
◆新約釈義 ルカ福音書 29 ……山﨑ランサム和彦
◆古代イスラエル文学史序説 38 ……勝村弘也